

令和3年度 十津川高等学校 学校評価計画表

教育方針		十津川の雄大な自然と地域の温もりの中で、「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成を目指す。								
教育目標		多様な学習に取り組み、生徒が自ら発案し、自ら実践できる力を育成する。								
		生徒や地域住民の生命と未来を守るため、防災教育及びキャリア教育を推進する。								
		生徒・教職員相互に強固な信頼関係を築き、規範意識やコミュニケーション能力を育成する。								
		学習活動の中で生徒がやりがいを感じ、自己の能力に自信をもって行動することで、将来、地域社会に貢献できる能力を育成する。								
○令和2年度の成果と課題		本年度重点目標				具体的目標				
HR担任を中心に生徒の状況を的確に把握し、教員間で情報共有することで、学習活動や生徒指導、進路指導等、様々な場面で適切な支援を実施することができた。全ての活動において主体的で協働的に取り組む姿勢を育み、自己有用感を高められるようにしていくとともに、全校生徒が自発的に行動できるように指導を行うことで、卒業後の進路に繋げる。特別な支援を要する生徒への共通理解を図るとともに、研修等により教職員の対応力を高める。防災意識の向上に向け効果的な訓練等を継続的に実施する。		社会で通用する人材の育成				基本的な生活習慣の定着に基づく、確かな学力の育成				
						一人一人の人格を大切に、他者への思いやりをもった豊かな人間性の育成				
						キャリア教育の推進				
						部活動や社会参加活動を通しての地域と共にある学校づくりの更なる推進				
		ICT教育の推進				オンライン学習と本校教育活動の発信による生徒数の確保を目指してのICT環境の充実				
		働き方改革の推進				業務の効率化と意識改革を通じた、勤務時間や健康を意識した働き方の実践				
評価項目	具体的目標(評価小目標)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)				
				自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
授業研究・学習指導	個別の学習時間を確保させる。	・学習教材を計画的に生徒へ提供することで、学習習慣を身に付けさせるとともに、進路実現に向けた取組の一環とする。	・曜日毎に国語、地歴公民、数学、理科、英語の各教科担当者から授業に関連した課題を提供いただき、授業外の学習時間の70分確保を目指す。学習状況調査を学期毎に行い評価の指標とする。	B	・放課後学習については計画通り実施していただくことが出来ている。学習時間の確保については、1日70分の学習時間確保が出来ていた生徒は全体の58.9%であった。	B	・放課後学習を予定通り実施することができた。学習時間の確保については、1日70分以上を満たしていた生徒は、平日で49.4%、休日で41.3%であった。対して、1日の中でゲームに費やす時間2時間以上が68.3%、スマートフォンに費やす時間2時間以上が61.3%であった。確実に、学習や読書に費やす時間は減少傾向にある。	・次年度入学生から個人のタブレット端末を全員が所有することになる。ネット教材の活用を実践する段階に来ているため、各分掌と連携しながら取り組んでいく必要がある。	B	家庭でのネット機器の使用時間増加が学習や生活リズムの乱れとなっているのではないかと、現状把握と正しい利用の指導が必要。生徒が学習の「楽しさ」を、おもしろさ、大切さ」を発見すれば、個別の学習時間を生徒自身でグラフ化するなど、視覚的に自覚できるようにする。
	授業研究の推進	・教員の授業力向上を目的として、授業参観の推進と、参観指定授業の実施を行う。また、校外での研究授業への参加を通して、進学希望者への対応と、基礎学力向上の両面に対応できるようにする。	・授業参観の回数や、研究授業への参加回数を記録するとともに、年間1回以上の参観指定授業を実施していただく。	B	・1学期の参観指定授業実施回数は少なかったため、2学期以降の実施を促していきたい。 ・研修等に関してはオンラインでの実施がほとんどではあったが、概ね参加できているようである。	A	・ほとんどの先生方が1月末時点で参観指定授業を実施して下さった。参観者も比較的多く、充実した研修が行えたと思う。 ・オンラインの会議や研修が定着し、これまでは全て予定通り実施できている。出張で現地へ行くよりも本校としてはこの形式のほうが有難く感じる。	・学習指導要領も次年度から変更になり、評価方法等も大きく変更される。シラバスの変更や指導案の表記も変わることとなるので、次年度も参観指定授業を継続して実施し、教科の枠を越えた研修を行いたい。		授業参観されることで緊張が刺激となり良い自信に繋がる。研修で色々な意見を取り入れ、経験を積むことで柔軟な考えを持つことができる。ほとんどの先生が参観授業をされたことは大きな成果であり、さらなる深化をお願いしたい。
生徒指導	生徒の規範意識を高め、問題行動を起こさせないようにする。	・規則が設定されている理由を、生徒が理解できるように説明する。 ・全教員が全生徒に積極的に関わり、平素から良好な関係を築くようにする。	・問題行動やいじめの件数を限りなく0に近づける。	B	・問題行動による特別指導は1件、いじめの件数は0件である。しかし、基本的な生活習慣が確立されていない1年生が例年より多く、大きな問題に発展しかねないため、注意深く生徒を見守る必要がある。	B	・特別指導は3件、いじめは2件であった。衝動的な行動を取る生徒はほとんどおらず、教員と良好な関係を築いている生徒も多い。 ・周囲の環境に適応できず、精神的に不安定になったり不登校になったりする生徒もいた。	・無意識にルールを破ってしまう生徒もいることから、小さなことでも気付いた教員がその場で生徒に指導する。 ・生徒が相談しやすい環境を整え、適切な支援を行う。	B	生徒会の「あいさつ運動」について、村内全ての学校で共通の課題と達成基準を持ちながら取り組むと良い。 いじめについては、認知をしっかりとし、解消率を上げることが重要。日頃から生徒たちの様子を窺い、指導をお願いしたい。 コロナ禍で地域貢献の機会はなかったと思うが、体育大会や文化祭では生徒たちが主体的に行動していて感動した。 生徒数が少ないために行動が目立つので相談しやすい環境と声かけをお願いしたい。 生徒指導がうまく機能していることが、村祭り等の大会に意欲的に取り組んでいる要因だと思う。
	生徒会活動が主体的に展開できるよう支援する。	・すべての生徒が何らかの役割を担い、責任感をもって高校生活を送ることができるようにする。 ・地域の関係機関と連携を図りながら、実施可能な範囲で生徒がボランティア活動に参加できる環境を整える。	・80%以上の生徒が「自分は十津川高校を構成している一員である」と実感できるようにする。 ・80%以上の生徒が地域貢献に資する活動ができたと思えるようにする。	C	・生徒会役員を中心に活発に活動している委員会もあるが、学校行事等の関係で活躍の場が少ない生徒もいる。 ・コロナ禍の影響で地域貢献活動がほとんどできない状況が続いている。	B	・多くの生徒が自らの役割を自覚しながら、学校行事を含む生徒会活動や部活動に取り組んでいた。 ・地域の方々と直接ふれあう機会を設けることはほとんどできなかったが、あいさつ運動などできる範囲内で地域の一員としての活動はできた。	・教員の支援を最小限にとどめ、可能な限り生徒が自ら考え、行動できる環境を整える。 ・社会情勢に左右されない形で地域に貢献できる活動を計画し、実施できるようにする。		
キャリア教育	進路実現に向けた適切な指導の確立。	・個人の能力や特性を把握しながら面談等を繰り返す、ミスマッチのない進路決定へと導く。 ・3学年担当者での共通理解を図り、共通認識を徹底することで、統一した進路指導を実現させる。	・生徒、保護者アンケートで達成度、ならびに満足度70%以上の結果を目指す。 ・教員アンケートで達成度80%以上の結果を目指す。	B	・クラス担任を中心にきめ細やかな指導を繰り返す、就職・進学についての概要や現状、その対策等を伝えながら学年全体が進路実現に向けての意識、意欲が向上するよう努めた。	B	・進路アンケートにおける各満足度は生徒87%、保護者96%、教員95%という結果であった。生徒は自身の取組を振り返っての評価であり、保護者からの評価は高かったものの一部、子どもとの意思疎通が不完全であったことから「100%満足とは言えない」という回答もあった。	・就職指導ではインターンシップをより充実させ、職業に対する知識や意欲のさらなる向上を図る。 ・スタディサプリ利用(申込み条件含む)の見直しや模試の充実、また教員による進学講座を増加するなど、公務員・進学対策を強化する。	B	進路アンケートの結果から、保護者が学校の対応に満足していることが窺える。 キャリアパスポートについて、小・中・高で内容検討が必要。何を学び、何が得意ようになるかに視点を置いた特色ある学校づくりが重要。 コロナ禍で大変な時期に企業・学校見学会を実施していただきありがたい。生徒たちの意欲向上に繋がったと思う。オープンキャンパスへの参加もお願いしたい。 警察官を志望する生徒への支援をお願いしたい。 卒業生の満足度は高いと感じる。
	キャリア教育の推進と外部との連携強化。	・各種検定受検を促進し、資格取得者の増加を図る。 ・企業見学、上級学校見学会を実施し、進路決定における参考材料を与える。 ・社会人講師による講座を実施し、卒業後にむけての意識向上と目標設定等を促す。	・昨年度と比較した延べ人数の増加、上級への合格者数を指標とする。 ・企業・上級学校アンケートで満足度70%以上の結果を目指す。 ・生徒アンケートで満足度80%以上の結果を目指す。	A	・5月に企業・学校見学会を実施。各自の進路活動にも大きく影響し、就職や進学に対する意識向上につながった。 ・就職希望者対象に外部講師による「面接・接遇マナー講座」を実施した。	A	・各種検定試験の受験者数は、昨年と比較して24%減少したが、合格者数は56%増加した。 ・3年生、2年生を対象に企業・学校見学会を実施した。各評価には差があったものの、新たな発見や意識向上への動機づけとなった。また見学先企業、学校からのアンケート結果は、満足度100%であった。	・現実的かつ明確な目標を設定させ、その対策を計画的に実行できるよう生徒と進路実現に向けた対話を早期から重ね、また保護者との連携を強化する。 ・企業見学や外部講師講座を可能な限り開催し、生徒の進路実現に向けた多角的・多面的指導を図る。		
安全環境	防災意識を向上させる。	・自分の身を守るためにどのように行動していくべきかという考え方をしっかりと身に付けさせるため、生徒、教職員ともに防災についての考え方や知っておくべきことを学ぶ機会を設ける。 ・事後指導を必ず実施する。	・年間2回避難訓練を実施する。 ・火災や地震に関する避難訓練だけでなく、さまざまな状況に対応できるような訓練を実施する。	C	・避難訓練を計画し、事前学習を行ったが、気象警報の影響で計画した避難訓練を行うことができなかった。	B	・2学期に予定されていた避難訓練を実施した。1学期に行った事前学習の知識を、実際に活用することができた。 ・十津川村や社会で地震や火災が多く発生したため、本年度も地震や火災に関する訓練を行ったが、不審者対応や登下校時の不測事態に対応するための訓練も、行っていく必要がある。	・本年度の課題をふまえた上で、年2回の避難訓練を計画的に実施する。	B	生徒が目的意識を持って主体的に関わるのが大切。 中学校への防災出前授業、ありがとうございました。 防災意識を向上させ、災害時に安全な行動をとれるように訓練を続けてほしい。 若い頃から健康管理を意識させてほしい。 不審者訓練もお願いしたい。 全ての項目が大切だと思われるので、初心を忘れることなく取り組んでほしい。
	美化意識を向上させる。	・生徒の美化意識向上に向け、整備美化委員会を中心に美化活動、美化啓発活動を実施する。 ・整備美化委員で学校を回り、修繕箇所、清掃重点箇所を見つけ出し、改善する。	・年間5回整備美化委員で校内美化活動を実施する。 ・整備美化委員主導で美化啓発活動を実施する。 ・学校の学習環境についてアンケートを、年2回以上実施する。	B	・予定通り整備美化委員の活動を行っている。 ・学習環境に関するアンケートを実施できていない。	A	・掃除頑張るDAYなど、整備美化委員会を中心とした計画的な活動を行うことで、生徒の美化意識向上に努めた。 ・学校の学習環境についてのアンケートでは、掃除によって学校がきれいになったと、90%の生徒が回答した。	・生徒の美化意識を向上をさらに図るため、整備美化委員会を中心とした創意工夫のある活動を進めていく。		
	健康意識を向上させる。	・心身の健康に関して興味関心をもたせるために、定期的に保健だよりを発行し、日々の保健室対応の中で応急手当や生活習慣の改善等の保健指導を行う。 ・生徒が健康診断を通して自身の健康課題を把握し、改善していくために、健康診断後の事後措置に努める。	・年間10回程度、保健だよりを発行する。 ・健康診断後に配布する受診勧告書の回収率を、例年の結果(30%前後)より上回ることができるよう周知徹底を行う。	B	・予定通り保健だよりを発行している。 ・現在の受診勧告書の回収率は、50%を超えているクラスもみられるが、全体としては24%程度である。	A	・予定通り保健だよりを発行した。 ・保健だよりの誌面や三者面談時に受診勧告を行った結果、3学年全体の受診勧告書の回収率は62%となり、例年よりも高い回収率となった。	・引き続き、生徒の状況に応じて、保健だよりの記事の内容を精選するよう努める。 ・次年度以降も、受診勧告書の回収率をさらに高めるために、生徒や保護者に向けた勧告を継続する。		

評価項目	具体的目標(評価小目標)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)		学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
				自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)		改善方策等
人権教育	差別やいじめ、嫌がらせのない学校づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> すべての生徒が快適な生活を送り、学習活動ができるよう努める。 身近な人間関係における人権意識を高め、社会で問題とされている事象についても目を向けさせる。 計画的に人権ホームルーム指導案を作成し、練って実践する。30年度より開始した人権を確かめあう日の取組を継続的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間5回程度、人権ホームルームを行う。その後、各学年の実施内容をまとめた「人権だより」を発行し、内容を振り返り、さらなる人権啓発に努める。 人権を確かめあう日の取組を計画どおり実施する。適宜、アンケートを実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 人権ホームルーム、人権だより、人権を確かめあう日の取組の全て、予定通りに実施出来ている。2学期以降も継続するだけでなく、内容を精査し、改善していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 人権ホームルーム、人権だより、人権を確かめあう日の取組の全てを予定通りに実施出来た。1年生の「多様な性」の人権ホームルームに向けては、打合せも行い、慎重に実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修などを通して、全教員が様々な情報や知識をさらに学ぶ機会を提供し、全教員の人権意識の高揚を目指す。 近年の注目課題である「多様な性」に関しては、授業2コマをあてられるよう、来年度に向けて人権ホームルーム年間計画を検討する。 	<p>「多様な性」については、小・中・高とどのような段階を踏んで指導すべきか、研修の機会があると良い。難しい課題なので慎重にお願いしたい。</p> <p>LGBTQへの理解を深めることは今日的課題であり、とても重要。日本における女性の尊厳にも光を当ててほしい。</p> <p>支援が必要な生徒が増加傾向にある中、高校入学後の行き届いた支援や個別の支援計画の引継等の連携が重要。</p>
	個々の特性に応じた支援体制づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> 現在行っている支援体制のチェックを怠らず、これを基本にして個々の生徒に応じた支援のあり方を随時考える。また、各学年と連携して生徒の状況を把握し、必要に応じて会議をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育に関して、「支援のあり方」について検討し、実践を重ね、取組と成果との結びつきを全職員で検証する。 学期ごとに支援体制を確認し、年度末に向けてその方策の確立を目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 9月時点で個別の特別支援計画の作成を必要とする生徒は確認していない。今後より細かなチェックを怠らず、2学期以降は特別支援教育支援員の方も含めて、全職員で情報共有、共通認識したい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1年を通して特別支援計画の作成を必要とする生徒は確認していない。 必要に応じて、学習面での支援、生活における支援など、様々な支援方法を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在籍生徒について、進級後の来年度も細やかな観察、情報共有を行い、必要に応じて支援計画を作成する。 特別支援教育支援員やスクールカウンセラーの方々の活用方法を再考し、様々な支援を実施出来るようにする。 	
文化情報	ICTを活用し、学習活動や広報活動を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> Google Workspace等のWeb学習ツールを用いて、学習活動や学級活動に取り組めるように指導する。 校務や学校広報において効果的にICTを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTに関わるアンケートで、情報活用能力が向上したと答える生徒が7割以上を目指す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒共用Surfaceを今年度2台と電子黒板のデモ機1台を導入し、ICT利用環境の充実を図った。来年度のBYOD導入に向け、教員向けに校内ネットワークを先行導入した。今年度から職員連絡にGoogleスプレッドシートを導入した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの結果、75%の生徒の情報活用能力が向上し、Google Workspaceを活用した学習法が定着しつつある。 校内ネットワーク基盤が整い、クラウドサービスの利用が増えることで校務の効率化を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒主体のICT活用を増やすために、教員間でのノウハウの共有や校内研修の機会を設ける。 新年度入学生徒のBYOD運用に向けた校内体制を整え、随時ブラッシュアップを行う。 	<p>読書活動が活発になるよう、村内各校の担当が意見交換できると良い。</p> <p>図書室ニーズと利用方法の改善が必要。</p> <p>豊かな感性を育んだり、旺盛な好奇心を身につけるためにも読書は大切。</p> <p>図書室を「明るく、かわいく、開放的」に模様替えして入りやすい環境にする。</p>
	読書習慣を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 図書委員と連携し、生徒、教員の希望する図書の充実、利用しやすい図書室の整備を行い読書活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書の貸し出し冊数年間100冊を目標とする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 現在の貸し出し図書は15冊である。図書委員がオススメする本を、目につきやすい棚に移動させ、学校図書管理ソフト・ELISE Egg 4の名簿の更新を行った。今後、新着図書の紹介や、学級文庫の入れ替えを行う。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 貸出冊数は、42冊であった。成果は、学校図書管理ソフト・ELISE Egg 4に登録されていない図書を新たに登録し、より貸出等の管理がしやすくなった。課題は、図書室にどういった本があるのか理解している生徒が少なく、それに伴い図書室を訪れる生徒も少ないことが挙げられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 新規購入本のリストの作成や、図書委員、もしくは教員などのオススメ図書の紹介をするなど、生徒に周知を図る。 生徒向けアンケートを実施し、生徒の読書意識やニーズを調査し、改善に繋げる。 	
	文化行事を通じて生徒の主体性を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 文化鑑賞会や高文連巡回展などの文化行事における生徒の活躍の機会を増やす。 文化委員が中心となり、文化祭の企画・運営を行い、生徒自らが魅力的な文化祭の実現に向けて取り組めるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭に関わるアンケートで、9割以上の生徒が満足できたと回答する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も感染症対策を講じながら文化祭実施を計画している。模擬店の実施は困難であるが、教室展示の充実など可能な範囲で内容の改善を目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭において展示や舞台発表の時間を十分に確保し、生徒アンケートの結果、92%の生徒が満足できたと回答している。 文化行事では生徒が積極的に準備・運営に携わり、生徒の意思が反映されたものになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭について、事前準備や生徒向けのルールで課題があったので、早期から検討事項を提示して議論を重ねた上で行事運営する。 	<p>コロナで制限される中、文化祭は展示、舞台発表とも各クラス個性的で良かった。</p> <p>次年度も引き続き合同文化鑑賞会をお願いします。</p>
	本校の広報活動を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページを軸として、教育活動の内容を発信し、本校を多くの方に知っていただく。 中学生や中学校に向けたアプローチ方法を実践し、入学希望者数の増加を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化情報部が中心となり定期的なホームページ更新を促す。また、ホームページのコンテンツを充実させる。 中学生の体験入学における、中学生の参加目標人数 40名を目指す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は8月から中学校訪問を行い、早い時期から広報活動に取り組んでいる。学校の雰囲気より具体的に伝えるために、VRを活用したバーチャル学校訪問サイトと、中学生向けの学校紹介ページを作成した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 1月末時点で47件のWebページ更新と、2種類の学校紹介ページ(VR校舎案内・中学生向け)の新規立ち上げでインターネット広報の充実を図った。 体験入学で25名、e-オープンスクールで14名の中学生が参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの内容のブラッシュアップを行い、常に新鮮な情報を提供できる体制を整える。 入学希望者が望むニーズを把握し、的確な情報提供を心掛ける。 	<p>コロナと交通が不便なため、ホームページでの学校紹介はとても良い。</p>
学校寮	寮生のメンタルサポートに対する組織的な対応を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> 寮生が抱える悩みや不安などを早期に把握し、教職員間での情報共有ならびに保護者との連携を図りながら、慎重かつ丁寧な対応に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 舎監の教職員が全室を巡回し、寮生への声掛けや表情の確認などを積極的に行う。 寮での様子で変化が見られた生徒について、職員会議等を通して定期的にその状況を共有するとともに、HR担当が保護者に連絡をする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 寮生の様子について、あらゆる機会を通して、教職員間で情報の共有はできている。また、保護者への連絡も適切に行われている。 精神的に不安定になる女子寮生が多く、前例がない対応に迫られているため、関係機関等とも連携しながら、適切に対応する必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 寮生に少しでも変化が見受けられたら教職員間で情報の共有を行うことができた。また、HR担任を中心に保護者への連絡も密に行い、良好な関係を築けた。 寮内での人間関係に悩み、精神的に不安定になる生徒が多く、登校時間になって部屋から出ることができない生徒もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間関係に悩む寮生の大半が1年生であることから、入学当初からカウンセリングを定期的に行うとともに、保護者や関係機関等ともより一層連携を深める。 	<p>コロナ感染に気を付けながらの取組が大変だったと思います。</p> <p>「地域との共生」には地域の課題や状況を理解した上で、どのような支援や貢献が必要か考えるべき。</p> <p>日々の舎監業務が大変であると推察します。</p> <p>コロナ禍の寮生活でストレスが溜まって、自己中心的な行動に出るのでしうか。</p> <p>問題となる行動がないのは寮内での先輩・後輩の関係がうまくできていると思われ。</p> <p>守る所、見守る所、注意する事、日常生活の中で対応をお願いしたい。</p>
	寮生の自主性を尊重し、その様子や行動に対して的確な指導助言をする。	<ul style="list-style-type: none"> 自治会を中心に、寮運営に関わる各提案について検討し、実践することのできる環境を整備する。 寮生が自発的に行動できるよう指導するとともに課題解決力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に自治会で話し合い、また寮生全体が議論する機会を設ける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 自治会の生徒を中心に、よりよい寮生活にしていこうという意欲に溢れる寮生がいる一方で、規則を守れない寮生もいる。寮生同士で注意し合っていることも多いが、それが原因でトラブルにならないよう、教職員が見守る必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 自治会の生徒が寮生活における改善点を定期的話し合っていた。また、問題が起こった際に自分たちで解決しようとしている姿もしばしば見受けられている。一方で自己中心的な行動をとる寮生も少なからずおり、集団の和を乱すこともあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 寮生に自主性と自己中心的な行動は異なることを理解させる。そのために、時間を守ったり掃除をきちんとしたりするなど日常生活の中で規範意識を高めさせることに重点を置く必要がある。その上で寮生活をよりよくしていくための自治的な活動に取り組ませる。 	
	地域社会に感謝し、愛される寮づくりを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 寮組織の一員であると同時に、地域社会の一員であることを常に理解させ、自発的に奉仕作業をするなど地域に感謝することのできる心の育成に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 長期休業中等を利用して、地域社会に貢献できるボランティア活動を可能な限り実施する。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 地域に貢献できる活動は行っていない。今後コロナウイルスの感染状況を見極め、生徒の安全確保を最優先にして、可能な活動を計画し実施したい。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 寮として直接的な地域に貢献できる活動はできなかったが、多くの寮生が十津川村駅伝に参加し、元気に高校生活を送っていることをアピールすることができた。 		
第1学年	進路	<ul style="list-style-type: none"> 高校3年間のビジョンを描き、それに向けた計画を立てさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間や学期ごとの目標を立てさせ、各学期末に目標の到達度を自己評価させる。 自己評価をもとに3年後(卒業後)を意識した具体的な進路計画を示せるようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学年集会や各HRにおいて学期や年間ごとに目標を立てさせ、生徒が到達度を実感できる取り組みを行っている。 学力向上講座等を活用する生徒が数名おり、卒業のことを視野に入れて進学資料請求等の具体的な行動する生徒が多くみられる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学期ごとに各自が具体的な目標を設定し、それらに取り組む姿を確認できた。年間を通しての目標チェックシートでは「入学当初より成長できている」と「年度当初の自分の描いたイメージに近づいた」の項目で「4.そう思う」「3.思う」の回答が全体の70%以上であったが、「思わない」と回答した生徒も2名おり、更なる進路指導や生徒指導等が必要である。 具体的な進路を掲げる生徒も数名確認できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も学期ごとに具体的な目標を設定させ、生徒が取り組むべき課題を可視化させることで進路実現のスムーズステップを達成させる。 手帳等を活用し、生徒に定期的な予定を把握させることで、行動の計画性をもたせる。 	<p>1年生の時から進路について具体的に挙げていくのはすばらしい。</p> <p>精神的な面で遅刻する生徒が心配です。支援員と協力して対応をお願いしたい。</p>
	学習	<ul style="list-style-type: none"> 日々の授業を大切に、与えられた課題や提出物等は必ず期限を守れることを徹底させる。 スタディサプリ等を積極的に導入し、復習を生徒自身で行える環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業へ遅刻、途中退室をさせない。また手帳を活用し、課題等を期限内に提出できるようにする。 成績不振生徒を調査ごとに減らしていく。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 1学期学年欠点者8名、成績評価のできない生徒が3名出てしまった。2学期以降、支援員の先生と協力し合い、生活面の改善や学習環境整備を行い、欠点者数減、欠課数超過による成績不可の生徒を0にする。 スタディサプリには5名参加している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学期が進むにつれ、授業への遅刻、途中退室が減少したが、現在も気持ちの面等で遅刻する生徒が数名いる。 考査前勉強会等で成績改善に取り組んだが欠点者にあまり変化が見られない。しかし生活においては徐々に改善されており、1学期と比べ学習に取り組む姿勢は良くなってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて学年会議を開き、支援員の先生と協力しながら生徒の状況や情報を共有していく。 進路LHRの展開方法の工夫や個人面談を定期的に行い、HR担任と教科担当の連携も強化していく。 	
第2学年	進路	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に年間計画を考えさせ、進学希望者、就職希望者それぞれに応じた指導、助言を行う。 インターネット等を活用し、進学先や職業についての知識を深める。そのサポートを行い、卒業後の進路実現を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 進学希望生徒はオープンキャンパスへの参加、模試の受験を年度内に必ず行う。 インターシップ等へ参加し、自分の進路について追求して希望職種を絞る。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 数名の生徒がオープンキャンパス(リモートを含む)へ参加した。模試に関してはこれまで以上に延べ9名が受験し、4年制大学希望者は全員が受験している。 就職希望者は少しずつ希望業種を示してくれる生徒が出てきており、進学希望者には進学先を決めた生徒もいる。 自分自身の進路に向き合うことができていない生徒へのサポート面が課題である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 春休休業を有効活用し、積極的にオープンキャンパスへ参加させ、進路先について理解を深めさせる。 自分自身の進路に向き合っていない生徒は生活面でも自己目標に向けての行動が見られないため、まずは自己肯定感、自己有用感を築くことに徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパスに参加させることで、進路に向けて具体的に考えられる。 <p>コロナの影響でボランティア活動が制限されるのが残念です。</p> <p>自己目標をもたせる努力をお願いします。</p> 	
	生活	<ul style="list-style-type: none"> 中間学年としての自覚をもたせ、行動で先輩を導くことができる生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間と学期の自己目標、自己評価シートを作成し、学期ごとに回収し学年教員で確認する。 生徒会やボランティア活動等への参加経験生徒が過半数に達する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 自己目標と自己評価シートを定期的に確認し、生徒の自己肯定感の向上に努めている。またHRごとに学期目標や年間目標を立て、目標達成に取り組んでいる。 新型コロナウィルスの影響もあり、ボランティア活動等へは参加できていなかったが、生徒会役員へ7名が立候補し、6名が選出された。行事等へも積極的に参加している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 自己目標と自己評価シートを定期的に確認し、生徒の自己肯定感の向上に努めている。またHRごとに学期目標や年間目標を立て、目標達成に取り組んでいる。 新型コロナウィルスの影響でボランティア活動等へは参加できなかったが、生徒会役員へ7名が立候補し、6名が選出された。行事等へも積極的に参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 自ら立てた目標達成に向けた行動を一切取らない生徒に対しては、教員が姿で示し、声をかけ続ける。また「取ることができない」「理解できない」という視点に立ち、様々な機関とも連携をとり、生徒の自立に向けたサポートをおこなって行く。 	

評価項目	具体的目標(評価小目標)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)				
				自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策	
第3学年	進路	自己表現力を高め、進路を実現する。	・本校での学習を活かし、他者と協働して実践できる生徒を育成する。 ・「進路実現」に向け、意思決定と正しい努力ができる生徒を育成する。 ・「目標達成後の自分の姿」を考えて行動できる生徒を育成する。	・生徒や保護者との連携を更に強化し、多角的かつ柔軟な進路指導を行うことで、全員が各人の能力や資質に見合う進路先を決定する。	B	・生徒、保護者の希望をベースに、一人一人の能力や特性、技能に見合う進路先が決定するよう心がけた。また、各受験日から逆算した計画的な進路指導に努めている。	B	・生徒本人の希望と意志を確認した上で、個人の能力や特性を慎重に勘案しながら指導を進めた。また保護者との連携や調整にも努めた。寮生については、家庭での相談機会が少ないこともあり、一部保護者との意思疎通に困窮する生徒もいた。	・進路目標とその計画や対策を具現化し、生徒と保護者からの信頼を得ながらその間に立って、より理想的で満足できる進路実現となるよう努める。	高校卒業後に社会で通用する人材になるためには、在学中の学習が大変意義のある大事なものであると思います。寮生で保護者と意思疎通に困窮する生徒への対応が難しい。フィールドワークや専門的講座受講などの経験をさせていただきありがたい。
	生活	知・徳・体の調和した、社会に貢献できる人材の育成を目指す。	・勤労を尊び、自主的・積極的に行動できる心身共に健全な産業人を育成する。 ・専門的な知識や技能を修得し、たくましく社会を生き抜く力を育成する。 ・学級活動等の特別活動をとおして自主性や協調性を育み、豊かな心を育成する。	・学校内はもちろん、地域社会の一員であることに自覚と誇りをもたせ、校内外での諸活動をとおして社会に貢献する。	B	・社会情勢により校内においての活動が縮小し、また校外での活動が制限された中ではあるが、専門的な知識・技能を可能な限り修得させて、社会貢献できる人材を育成するよう努めている。	A	・教科学習とともに地域の特徴や課題を探究しながら生活していくことの大切さを知り、また課題解決に向けての現実的な難しさを学びながら、社会人になるにあたっての意識や心構え、それらに対する自覚が身に付いた。	・根拠に基づく高度なフィールドワークや外部講師による専門的講座の受講など、高校3年間の学びを総合的に実践しながら人間力を高め、卒業後には即戦力として社会で活躍できる人材を育成するべく、計画的な指導を展開する。	
業務改善	業務の効率化と意識改革を図り、勤務時間を削減する。	・ICカードにより勤務時間を把握し、計画的な業務形態を推進する。 ・すべての部活動で適切な活動時間や休養日を設定し、業務の効率化を図る。	・すべての教員で、時間外勤務が45時間を超える月を年間6か月以内とする。	B	・7月から舎監業務も時間外労働として計上し、健康管理医の面接に繋げる等、職員の健康管理を推進した。また、全教員が勤務状況を把握できるよう、就業月報を配付し、働き方改革への意識付けを行った。	C	・時間外勤務45時間を超えない月が6か月以内の教員は22名中10名のみで、目標値を大きく下回った。しかしながら、本年度から舎監勤務や特業勤務も計上することで、時間外勤務に対する意識は高まった。	・年度初めから時間外労働が設定値を超過しないよう、計画的に分掌業務等が進められる学校経営計画を策定する。	意識を高めても業務が減らない限り勤務時間削減は難しい。会議のペーパーレス化や退勤時間を意識した仕事を考えてほしい。休憩やスイッチのオン・オフが必要。	
研修	教育活動に還元できる校内研修を実施する。また、本校の魅力を外部へ発信する手立てを講じ、本年度以上の受験者数の確保を図る。	・小中高で共通した教育課題の解決に向けて合同の研修を行い、教育活動に還元する。 ・関係機関と連携、協働する体制づくりに取り組み、地域になくてはならない魅力ある学校を目指す。 ・ICTを活用するとともに、中学校等の訪問を通して、中学生や保護者、中学教員への情報発信を図る。	・保護者アンケートや生徒アンケート等で十津川高校へ入学して良かったと感じる割合を80%以上にする。 ・本校を受験する生徒数を40名以上確保する。	B	・1学期の保護者アンケートでは、十津川高校へ入学させて良かったという回答が全体の99%であった。 ・小中高の教員交流会研修をオンラインも交えて実施した。	B	・2学期の1、2年生の保護者対象アンケートにおいては、十津川高校へ入学させて良かったという回答が100%であった。 ・生徒募集に関して、教員による中学校訪問やパノラマツアーの導入等、積極的な生徒募集に努めたが、令和4年度出願者数は特色選抜で16名であった。	・十津川地域連携教育の繋がりを積極的に活用し、小中学生に意識付けできる行事を実施し、生徒募集に繋げる。 ・コロナの状況が改善した状況下で、在校生の出身中学校訪問や発表会等、生徒が活躍する姿をアピールできる取組を実践する。	僻地の学校は独特の強みを活かす手立てを考えていくべき。校種を超えた参観や研修が発見や気付きに繋がると考える。職員研修は今後の学校運営の重要課題と考える。総合学習発表に物足りなさを感じた。多様な人間力を身につける学習なので、さらに研修を深めてほしい。	
事務校	学校生活における安全の確保及び環境整備に努める。	・定期的な巡視を行い、不良箇所等の早期発見と修繕、補修に努める。	・安全安心な施設環境の維持のため、施設設備の改修を限られた予算のなか、優先順位を決め、計画的に進める。	B	・厳しい予算状況の中、各教室等の照明器具の交換や修繕を行っている。 ・引き続き、不良箇所等の早期発見に努めながら取り組んでいく。	B	放送設備更新、空調設備増設、進路指導室及び美術室設備の充実等を実施できた。引き続き、校舎、学校寮、職員公舎等の老朽化による施設設備の整備が必要である。	関係部署への予算要求と優先順位を精選し、計画的に整備していく。	予算もありますが、校舎、学校寮、職員公舎の老朽化を改善してほしい。点検と優先順位を考えた整備をお願いします。	